

湖 人 第 4 2 号
令和8年（2026年）7月28日

湖南省多文化共生推進プラン策定委員会
委員長 様

湖南省長 松浦 加代子
（ 公 印 省 略 ）

第4次湖南省多文化共生推進プランの策定について（諮問）

本市では平成24年3月28日に「湖南省多文化共生社会の推進に関する条例」を制定し、この条例がめざす国籍、民族等の異なる人々が、互いの文化を認め合い、人権を尊重し、このまちの市民としてその文化や習慣の下で共に生きていく多文化共生社会の実現に向け、平成24年3月に「湖南省多文化共生推進プラン」を策定しました。

その後、経済・社会情勢の変化、定住化傾向の外国人の増加や国籍の構成変化などの現状を踏まえ、5年間毎に湖南省多文化共生推進プランの見直しを行い、多文化共生の推進を図ってまいりました。

この間にも、湖南省においては外国人の増加・多国籍化が一層進展し、在留資格「特定技能」制度の拡充や外国人材受入れの拡大などを背景に、地域社会の多様化が進んでいます。あわせて、デジタル技術の急速な進展や生成 AI の普及により行政・産業の在り方が大きく変化するとともに、少子高齢化の進行や人手不足の深刻化が一層顕著となっています。さらに、気候変動の影響による気象災害の激甚化・頻発化が続いているほか、国際情勢の不安定化やエネルギー・物価の変動など、社会情勢は複雑さを増しています。

現行計画である第3次湖南省多文化共生推進プランの計画期間が令和8年度末で満了となりますので、先述の社会情勢の変化や外国人の更なる増加が見込まれる中、より湖南省の実情に沿った施策が進められるよう、第4次湖南省多文化共生推進プランの策定にあたり、湖南省多文化共生推進プラン策定委員会規則第2条の規定に基づき、貴委員会の意見を求めます。

令和 8 年（2026 年） 3 月

令和 7 年度 湖南省多文化共生に関するアンケートについて（報告）

第 4 次湖南省多文化共生推進プラン策定の基礎資料とするため、多文化共生に関する市民意識調査を実施しました。

調査概要		
調査方法	郵送による調査票の配布 (郵送またはインターネットで回答)	チラシの配布 (インターネットで回答)
調査地域	湖南省全域	
調査対象者	住民基本台帳から無作為抽出した 18 歳以上の市民 2,000 人	—
調査期間	令和 7 年（2025 年） 6 月 1 日～11 月 30 日	
回答数	952 （内インターネットでの回答：138）	

回答者の国籍

日本人 ※	外国人※							
	ブラジル	ベトナム	中国	ペルー	フィリピン	インド ネシア	韓国	その他
890	25	9	5	5	5	3	2	3

※「国籍を教えてください」の質問で、「日本」と回答した人を日本人、「日本以外の国籍」を回答した人を外国人としています。

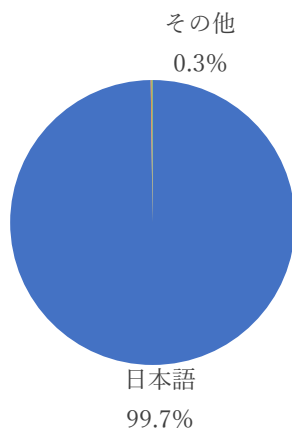
回答者の年代

～10 歳代	20 歳代	30 歳代	40 歳代	50 歳代	60 歳代	70 歳代～
57	87	166	157	157	181	145

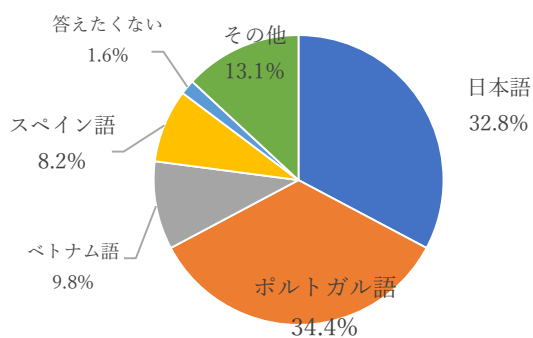
1. 言語について

日常、主に使用する言語を教えてください

日本人



外国人



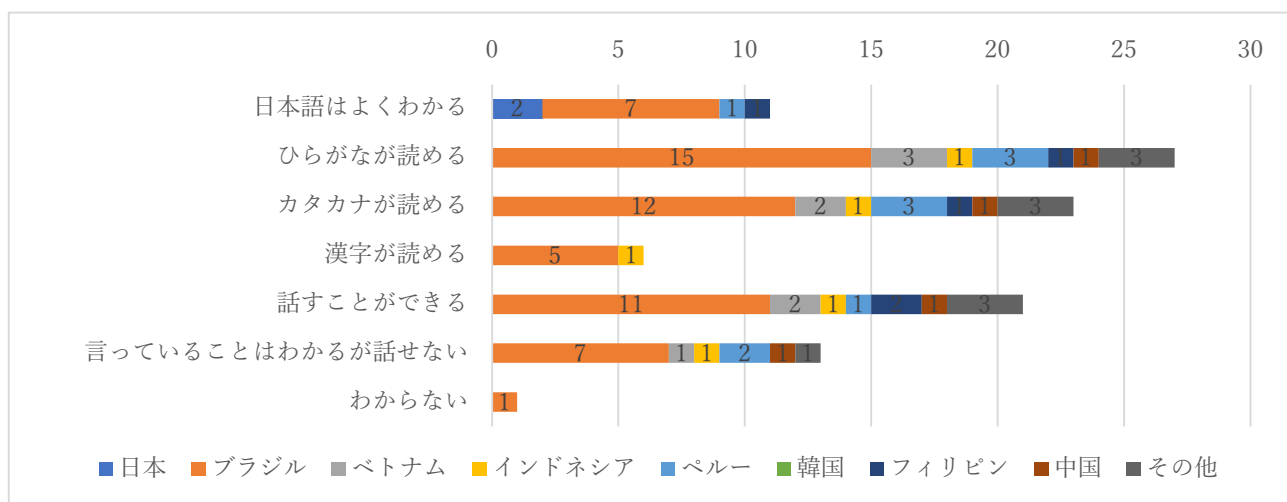
【その他の意見】

中国語 フィリピン語（タガログ語） 英語 インドネシア語 タイ語

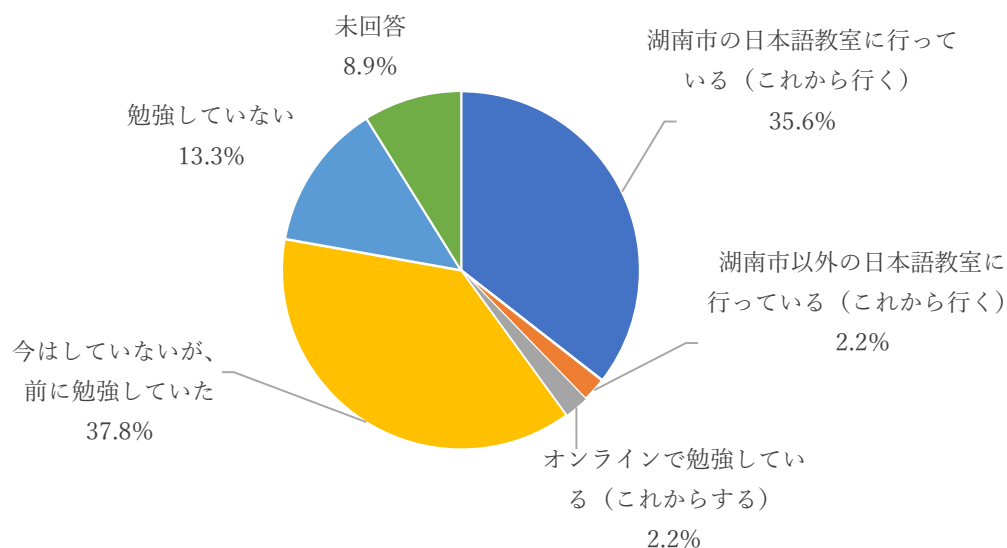
国籍を日本以外と回答した人でも、約3割は日常的に日本語を使用していると回答しました。

2. 日本語について

日本語はできますか。（複数回答） ※日常、主に使用する言語が日本語以外と回答した人に質問



日本語を勉強していますか。 ※日常、主に使用する言語が日本語以外と回答した人に質問

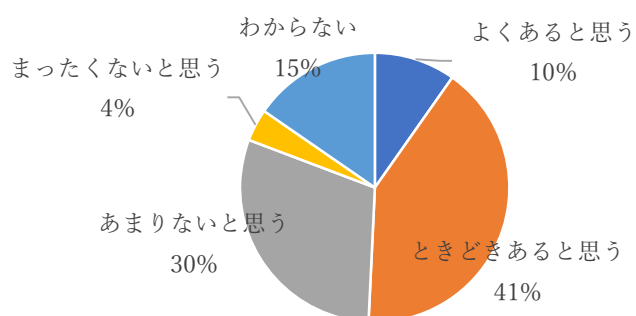


日常主に使用する言語が日本語以外である人であっても、多くの人が「ひらがな・カタカナを読むことができる」、「日本語を話すことができる」、「言っていることはわかる」と回答しています。また、過去に日本語を学習した、または現在も学習している人が8割近くいることから、日本語能力は日常生活や就労、地域社会での生活を送る中で必要不可欠なものとして認識され、日本語学習への意欲が高いことが考えられます。

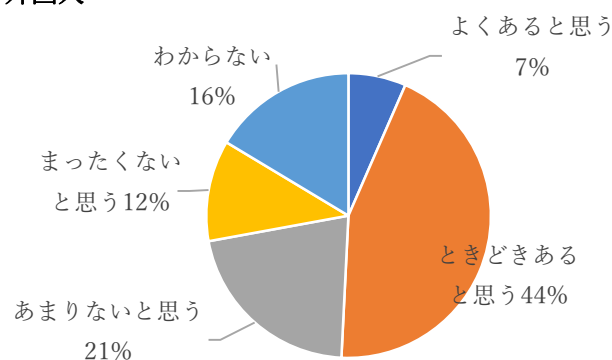
3. 外国人に対する差別や偏見について

日本人から外国人に対する差別や偏見はあると思いますか

日本人

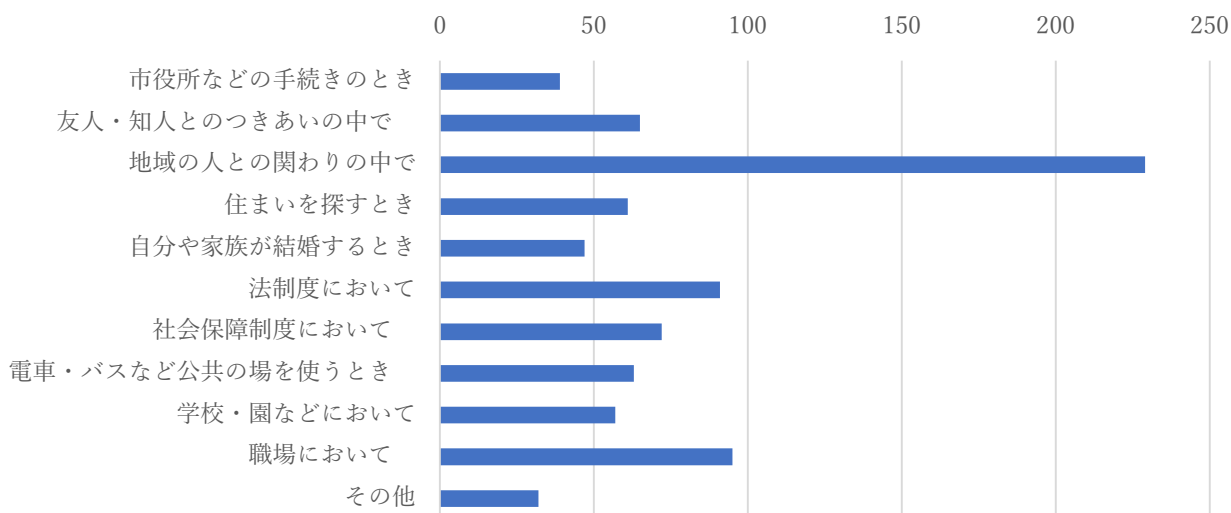


外国人

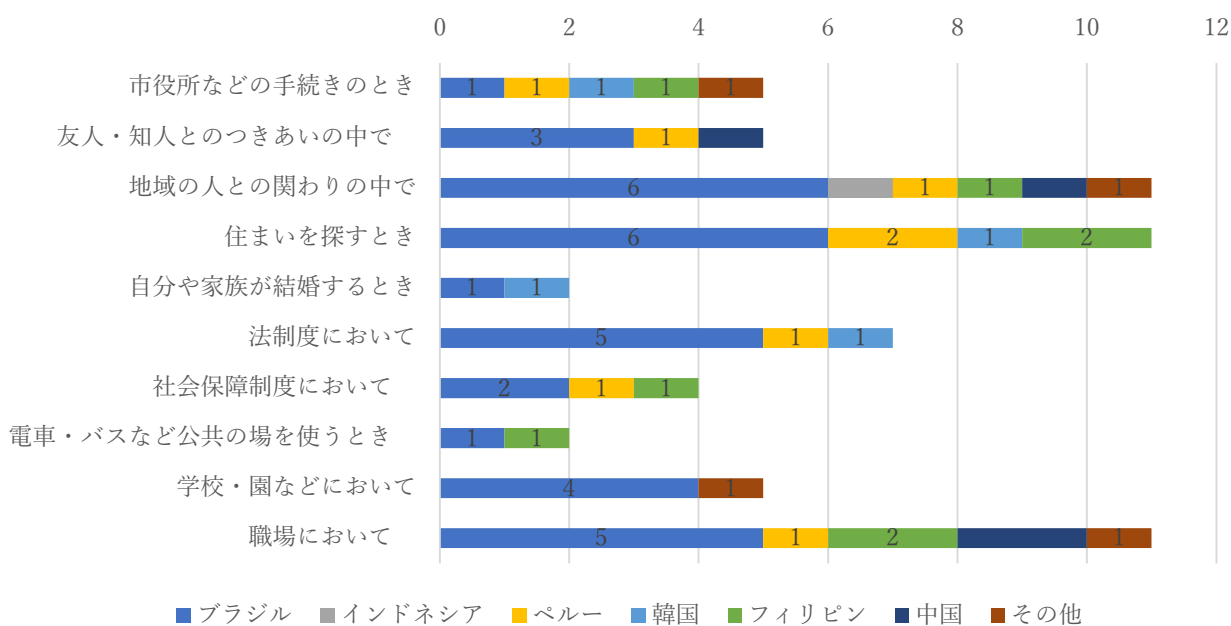


それはどんな時ですか（複数回答）

日本人



外国人



問 【その他の意見】

■メディア等 8件

内容：SNS やインターネット、テレビなどで外国人排除の意見を見聞きした 等

■公共マナー・生活行動の問題 6件

内容：公共の場でのマナー違反や迷惑行為を見た時 等

■偏見・ステレオタイプ（属性による決めつけ） 6件

内容：この国の人だからと勝手に決めつけているところがある 等

■日常生活の障壁・制度的対応 5件

内容：同僚の外国人に対する言葉遣い 等

■安全・治安への懸念と回避行動 5件

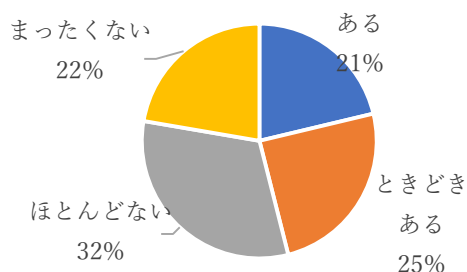
内容：外国人による犯罪に警戒心を持っている 等

日本人、外国人ともに、日本人から外国人に対する差別や偏見について、約半数が「よくあると思う」「ときどきあると思う」と回答しており、差別や偏見を感じる場面としては、「地域の人との関わり」が最も多く、外国人からは住まいを職場において偏見を感じたという回答も多くありました。また、メディア（SNS・テレビ）の影響、公共の場でのマナーや行動に対する不満、言語の壁によるコミュニケーションの問題なども挙げられており、日常生活のさまざまな場面で、日本人から外国人に対する差別や偏見を感じている実態がうかがえます。

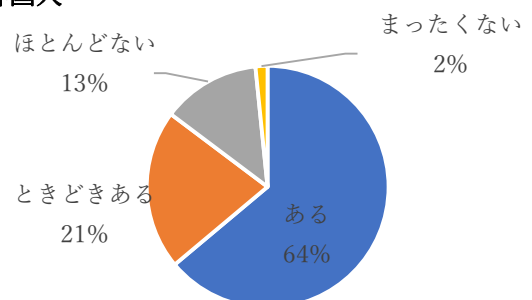
4. 外国人との関わりについて

生活の中で外国人との関わりはありますか

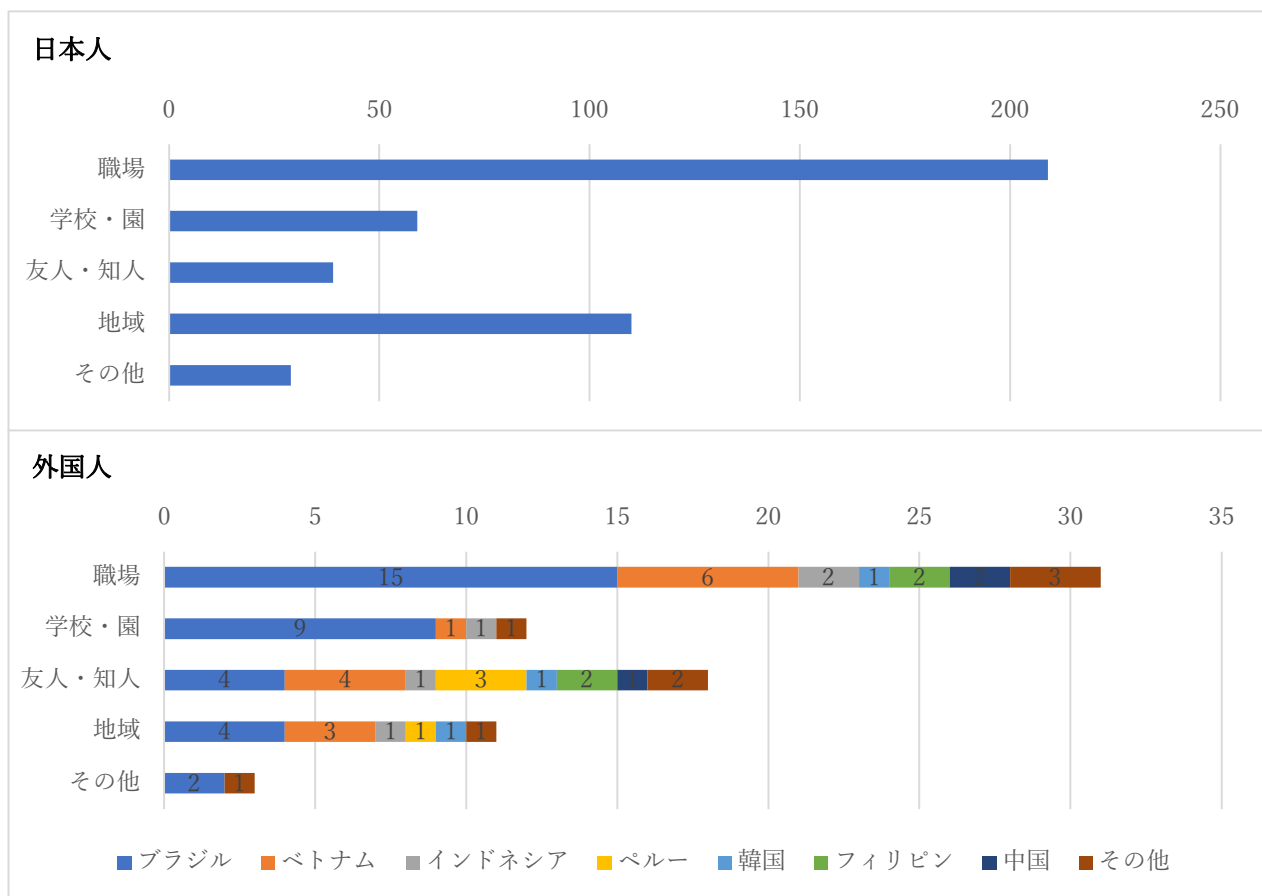
日本人



外国人



それはどんな関わりですか（複数回答）



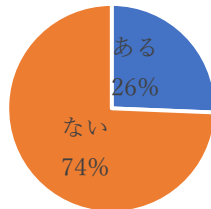
【その他の意見】

家族・親族・配偶者 13 件 職場・仕事関係： 5 件
 友人・知人・同級生・サークル・スポーツ 5 件 近所・地域コミュニティ 3 件
 店舗での関係（客・店員） 3 件 介護・福祉 1 件 サービス受領（利用者） 1 件

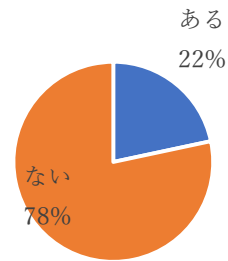
生活の中で外国人との関わりが「ある」「ときどきある」と回答した日本人は約半数であったのに対し、外国人では8割を超え、関わるの場面として最も多かったのは「職場」であり、日本人・外国人ともに職場が相互交流の中心となっていることが分かりました。また、外国人は日本人だけでなく外国人同士でも日常的に関わる機会が多いことがうかがえ、これは、同じ職場や地域の中で外国人のコミュニティの中で交流する機会が多いためと考えられます。一方、日本人は外国人との接点が比較的に限られていることから、相互理解を深めるためには、職場に加えて地域活動や学校、自治会など、日常生活のさまざまな場面で交流機会を増やす取組が必要です。

今までに、近くに住む外国人との関係で、困った経験がありますか

日本人

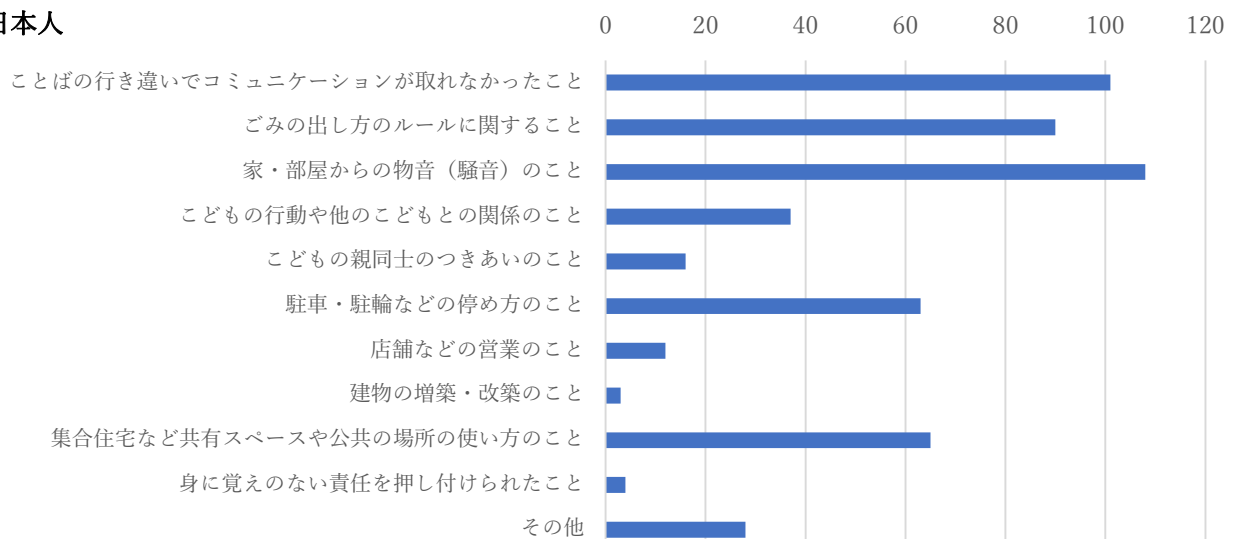


外国人

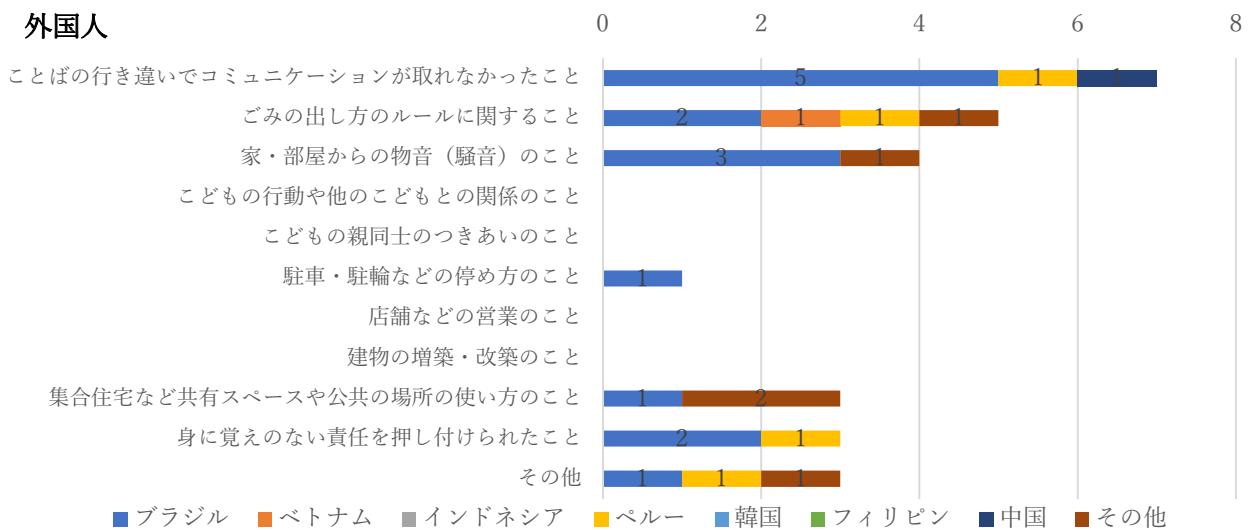


それはどんなことですか（複数回答）

日本人



外国人



【その他の意見】

■公共マナー・生活迷惑 11 件

内容：騒音やゴミのポイ捨て 等

■住環境・コミュニティ参加の問題 7 件

内容：自治会の決まり事に参加しない 等

■文化・価値観の摩擦・金銭・人間関係 6 件

内容：友人や同僚とのトラブル 等

■交通・安全・危険行為 5 件

内容：自転車の交通ルールや自動車保険無加入によるトラブル 等

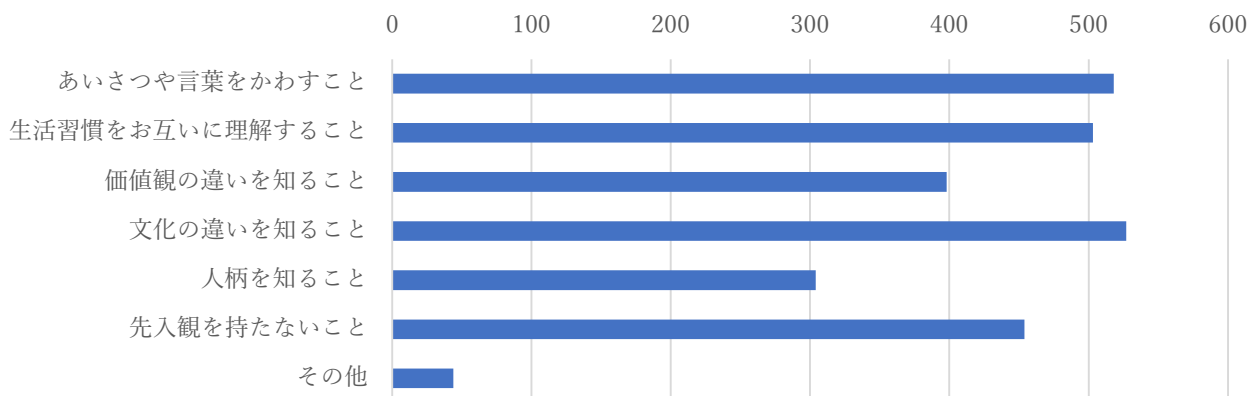
■犯罪・深刻な対人被害 4 件

内容：大声で脅すなど、脅迫的・威圧的な行為 等

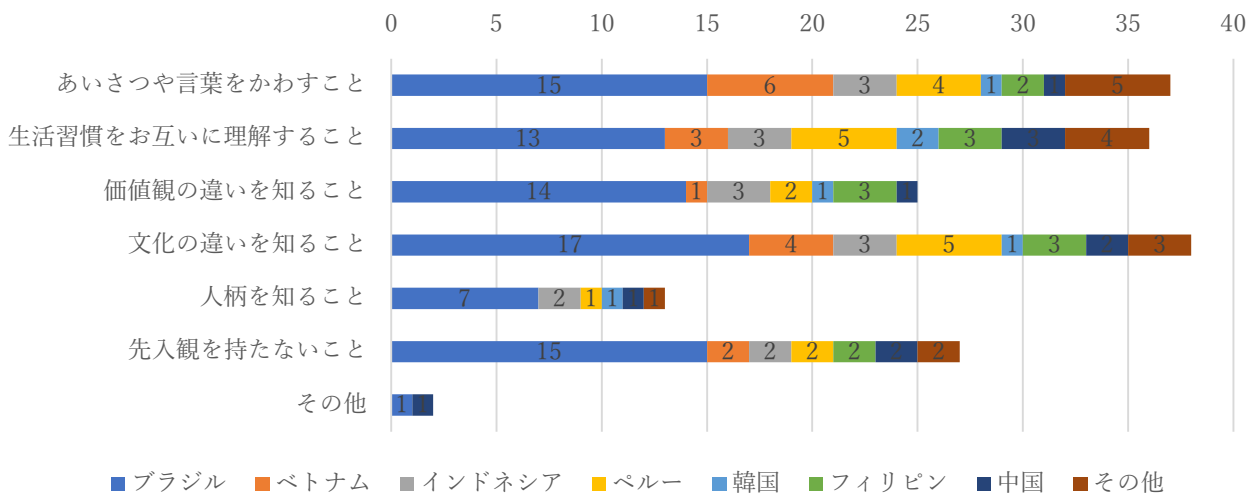
日本人、外国人ともに、近くに住む外国人との関係で困ったことが「ある」と回答した人は3割未満にとどまり、多くの人は大きな問題を感じていないことが分かりました。一方、困った内容としては、「家・部屋からの物音（騒音）」「言葉の行き違いによるコミュニケーション不足」、「ごみの出し方のルールに関すること」が挙げられました。また、「生活のマナー」や「自治会活動への参加」などの意見も見られ、これらの結果から、近隣住民同士のトラブルは外国人であること自体が原因ではなく、言語の壁や生活習慣・地域ルールの違いによって生じている場合が多いと考えられます。

同じ地域で日本人と外国人が生活していくうえで、大切なことはなんだと思いますか
(複数回答)

日本人



外国人



問 同じ地域で日本人と外国人が生活していくうえで、大切なことはなんだと思いますか【その他の意見】

■順応・遵守 24 件

内容：外国人は日本に住むなら日本のルール・マナーや生活習慣に従うべきという考え 等

■相互理解・思いやり 6 件

内容：偏見を避け、敬意と思いやりを持って相互理解を深めるべきだという考え 等

■排除・制限志向 6 件

内容：移民受け入れや特定国からの入国を制限・拒否すべきだという強い否定的意見 等

■具体的課題・懸念（混在意見） 6 件

内容：地域での実務的な困りごとや、ステレオタイプに基づく懸念、交流に関する意見 等

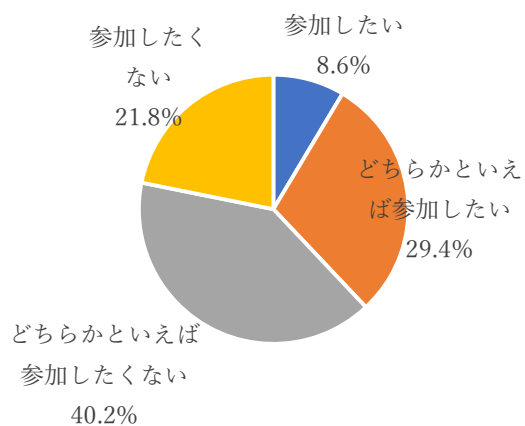
■教育・支援・交流 4 件

内容：順応を促すには教育・啓発や交流の場づくりが必要だという提案 等

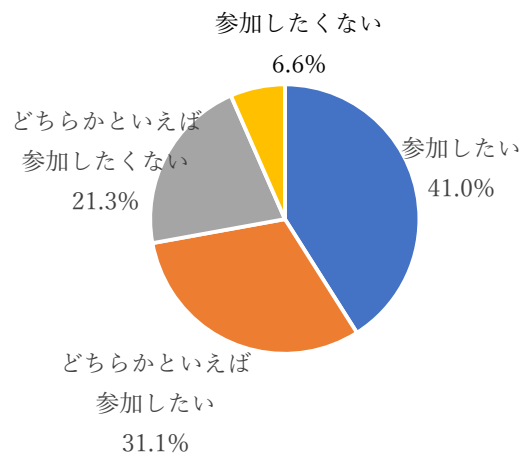
日本人、外国人ともに、同じ地域で日本人と外国人が共に生活していくうえで大切なこととして、「あいさつや言葉を交わすこと」、「生活習慣をお互いに理解すること」、「文化の違いを知ること」が挙げられました。一方で、外国人に対しては、地域の生活マナーやルールを守ることを求める意見も多く寄せられました。これらの結果から、日本人と外国人が安心して共に暮らしていくために大切なことは、文化や生活習慣の違いを互いに理解し、日頃からあいさつや会話を通じて交流を深めることが重要であることが分かります。また、外国人が地域のルールやマナーを理解しやすい環境を整えるとともに、日本人も外国人の文化的背景や価値観への理解を深める必要があります。

日本人と外国人が交流できる活動やイベントに参加したいと思いますか

日本人

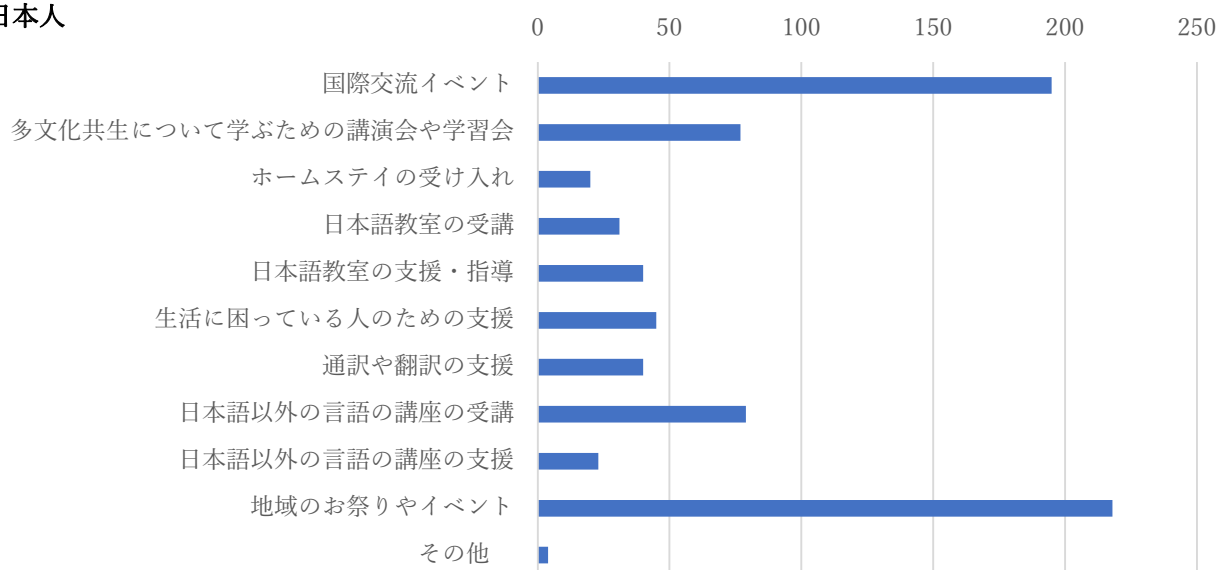


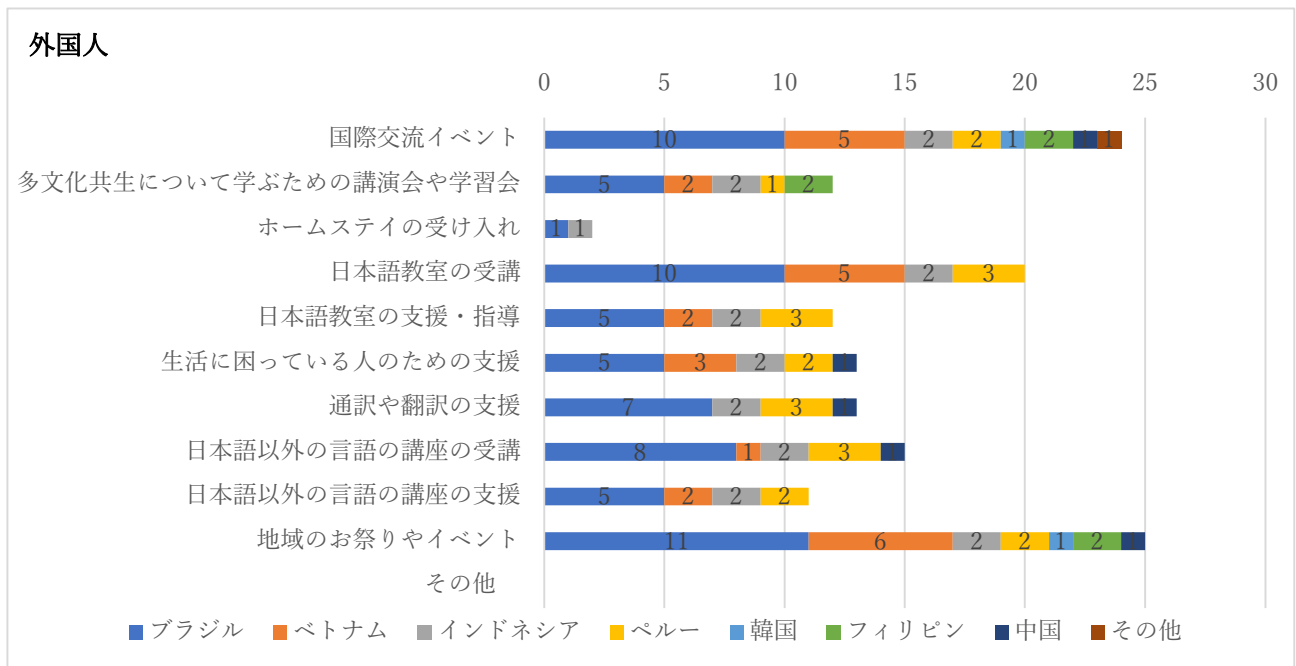
外国人



どのような活動に参加したいですか

日本人



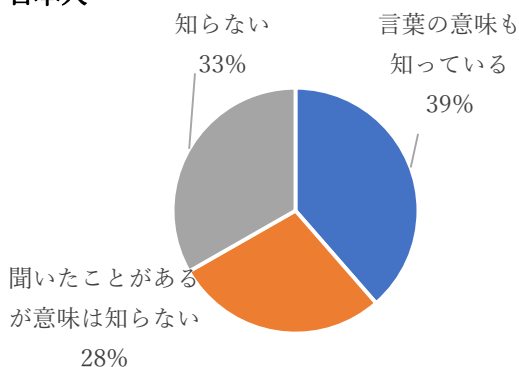


「参加したい」「どちらかといえば参加したい」と回答した人は、日本人では約4割であったのに対し、外国人では7割を超えました。また、参加したい活動としては、「国際交流イベント」や「地域のお祭り・イベント」が多く挙げられました。外国人は日本人との交流に対する意欲が高く、地域とのつながりを求めていることがうかがえる一方、日本人は外国人に比べて参加意欲が低い傾向が見られることから、交流の機会があっても積極的な参加につながっていない可能性があります。そのため、日本人と外国人の両方が参加しやすい内容や環境を整えることが重要であり、地域のお祭りやイベントなど、日常生活の中で自然に交流できる場を充実させることで、相互理解が深まり、地域における共生意識の醸成につながると考えられます。

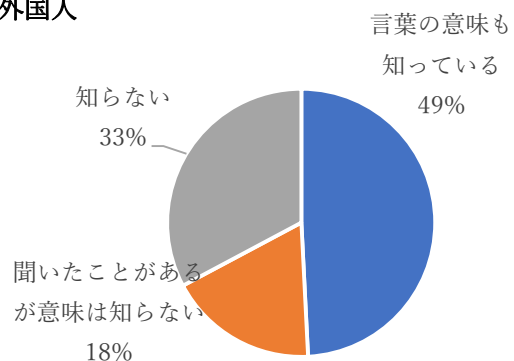
5. 多文化共生について

「多文化共生」という言葉を知っていますか

日本人

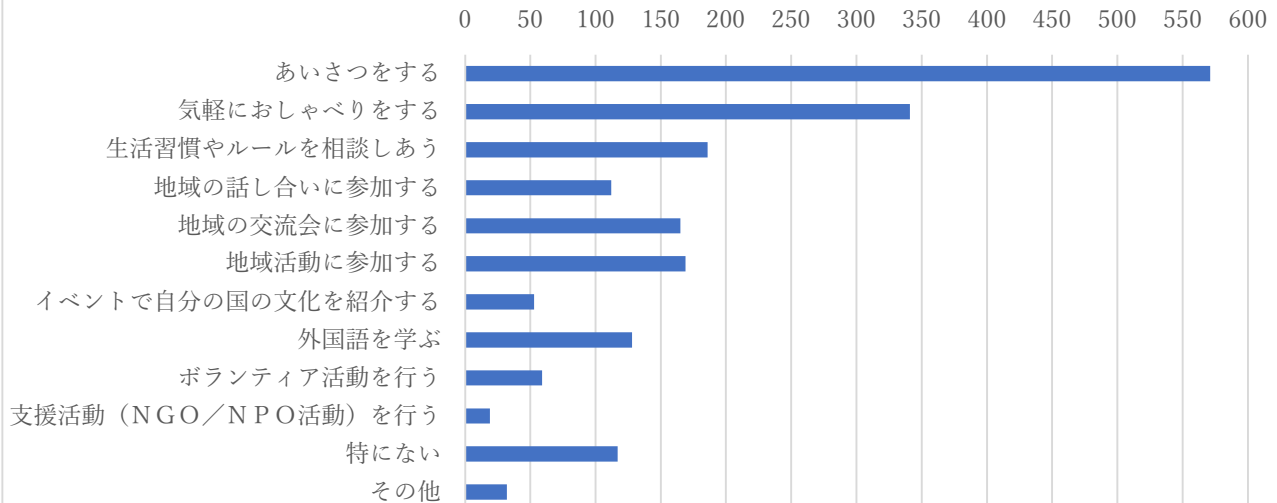


外国人

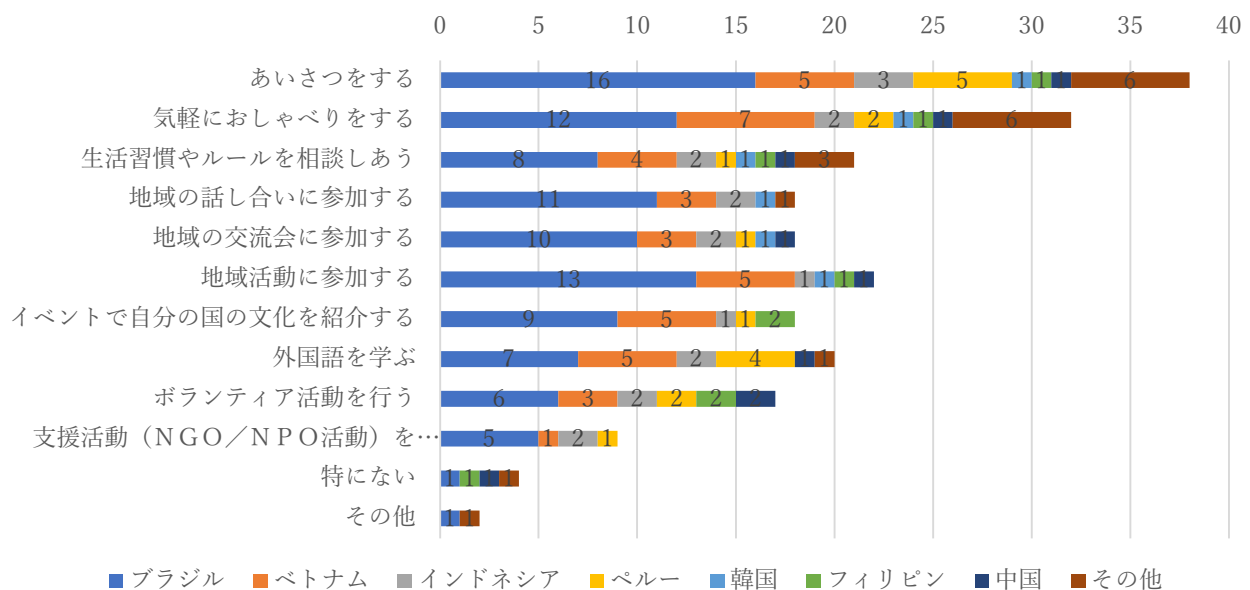


多文化共生のまちづくりを進めるために、自分にできることはなんだと思いますか（複数回答）

日本人



外国人



【その他の意見】

■反対・条件付・日本文化優先 30 件

内容：多文化共生を進めると治安が悪化する恐れがあり、まちづくりとしては反対
外国人に法律、慣習、日本語、文化を学ばせるべきという考え 等

■賛成／積極支援 7 件

内容：子どもたちには多文化共生の考え方を教え、相互理解の基礎を育てたい 等

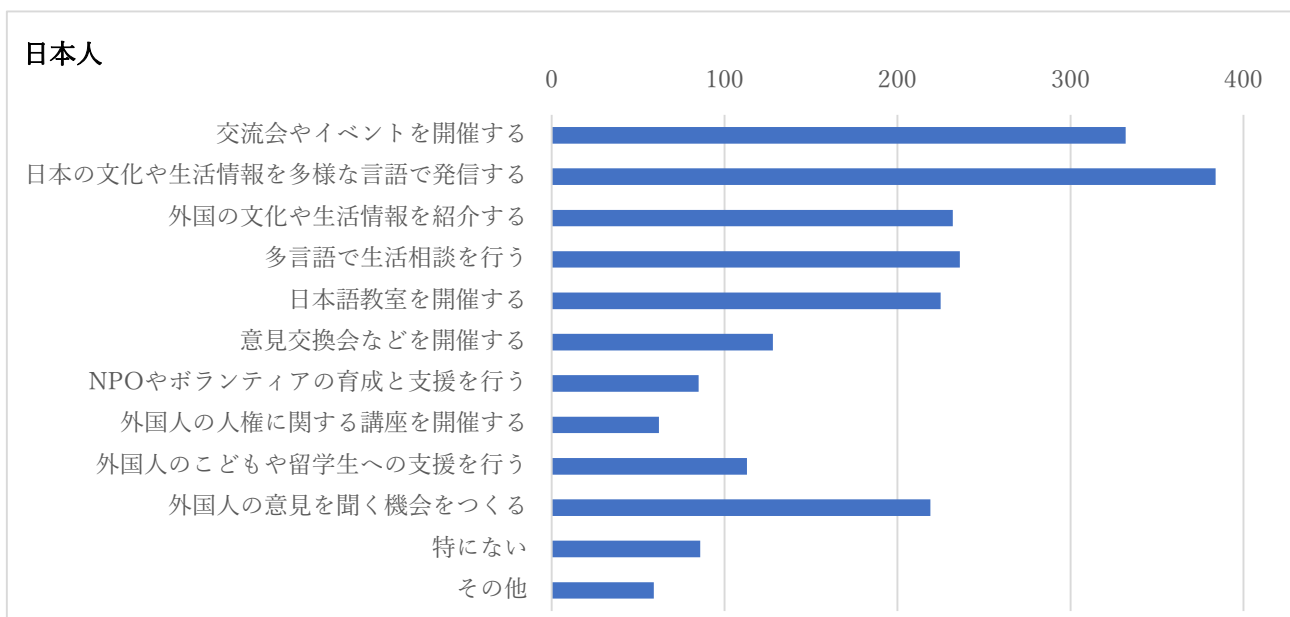
■中立・個人的事情／無回答 6 件

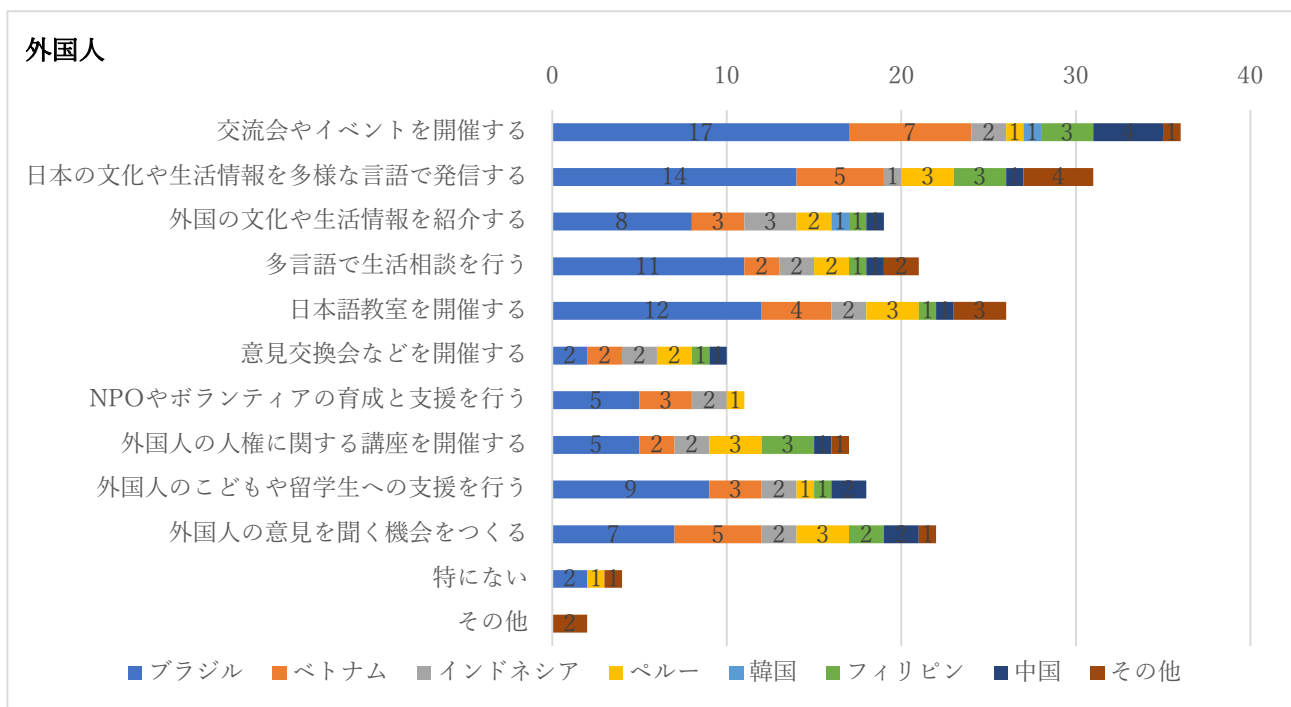
内容：特に必要性を感じたことがないので、状況次第で考える 等

多文化共生について「言葉の意味も知っている」、「聞いたことはあるが意味は知らない」と回答した人が合わせて約7割となり、多文化共生という言葉自体は広く認知されていることが分かりました。また、多文化共生のまちづくりを進めるために自分ができることとして、「あいさつをする」「気軽におしゃべりをする」と回答した人が最も多く、身近なコミュニケーションを大切にしたいという意識がうかがえました。一方で、「多文化共生を進めると治安が悪化する恐れがあるため反対である」、「外国人は法律や生活習慣、日本語、文化を学ぶべきである」といった意見も見られました。外国人が日本の法律や地域のルール、日本語などを理解することは円滑な地域生活を送るうえで重要ですが、多文化共生は外国人だけに適応を求めるものではなく、日本人と外国人がお互いの文化や価値観を理解し、尊重しながら共に地域社会を築いていく考え方です。多文化共生という言葉は一定程度認知されているものの、その理念や目的については十分に理解されていない人も少なくないことがうかがえます。今後は、多文化共生の正しい考え方を広く周知するとともに、日本人と外国人が日常的に交流し、互いの文化や生活習慣への理解を深める機会を充実させることが必要です。

多文化共生のまちづくりを進めるために、市が力を入れるべきことはなんだと思いますか

(複数回答)





【その他の意見】

■受入否定・日本優先 39 件

内容：多文化共生を進める必要はない、外国人の移民をこれ以上増やさないでほしい 等

■治安・ルール遵守・厳格対応の要求 28 件

内容：迷惑な外国人は、速やかに帰国させること 等

■教育・啓発・支援 20 件

内容：最低限のルールやマナーを理解できるよう講座を開催する 等

■制度・窓口・行政対応の整備 15 件

内容：差別を禁止する条例をつくる 等

■交流促進・具体的施策 17 件

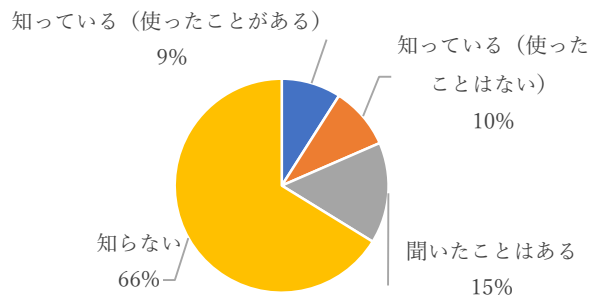
内容：お祭りや家族が参加しやすいイベントを開催する 等

市が力を入れるべきこととして、「日本の文化や生活情報を多様な言語で発信する」、「交流会やイベントを開催する」、「外国の文化や生活情報を紹介する」といった意見が多く寄せられました。これらの回答から、日本人・外国人双方が互いの文化や生活習慣を理解するための情報提供や、交流の機会づくりが重要であると考えられます。一方で、「多文化共生を進める必要はない」、「外国人の移民をこれ以上増やさないでほしい」、「迷惑な外国人は速やかに帰国させるべき」といった意見も見られました。多文化共生の推進に当たっては、外国人住民への生活ルールや行政情報の提供を充実させるとともに、日本人・外国人双方の相互理解を深めるための啓発や交流の機会を継続的に設けていくことが重要であると考えられます。

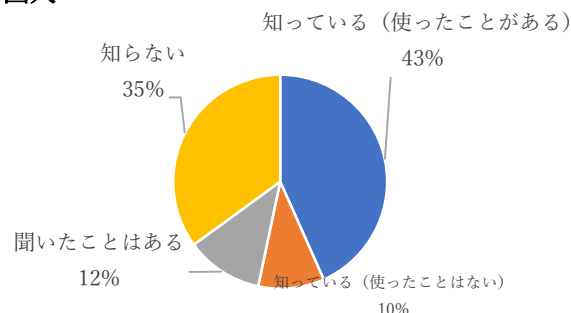
6. やさしい日本語について

「やさしい日本語」を知っていますか

日本人



外国人

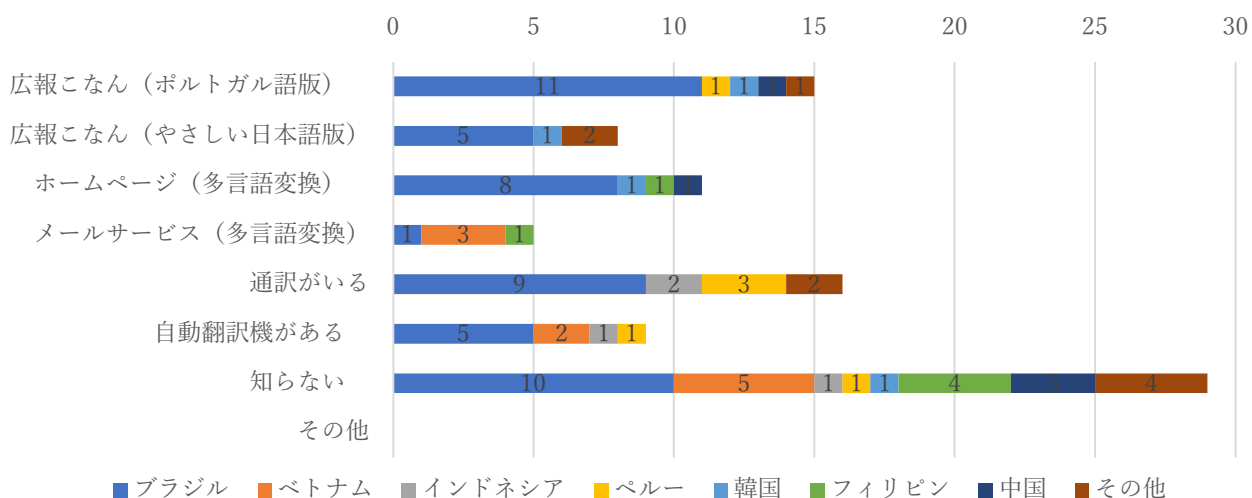


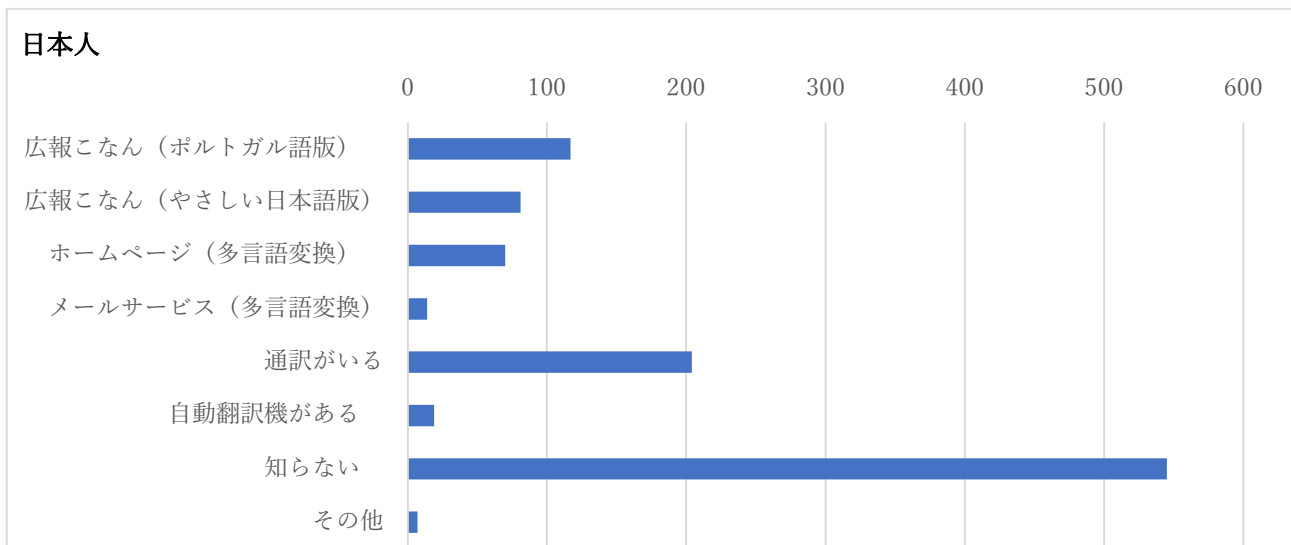
「やさしい日本語」については、日本人の6割以上が「知らない」と回答しており、まだ十分に普及していないことが分かりました。日本語に関する質問からも、外国人の中には、日常主に日本語を使用する人、ひらがな・カタカナを読むことができる人や、日本語を話すことができる人、相手の話している内容を理解できる人が多くいることが分かりました。一方で、外国人の日本語能力には個人差があり、日常生活や行政手続きなどでは、情報が十分に伝わらない場合があります。そのため、外国人への日本語学習支援だけでなく、日本人側も相手に伝わりやすい言葉の使い方を意識することが重要です。

7. 外国人向けのサービスについて

市役所の外国人のためのサービスがあることを知っていますか（複数回答）

外国人





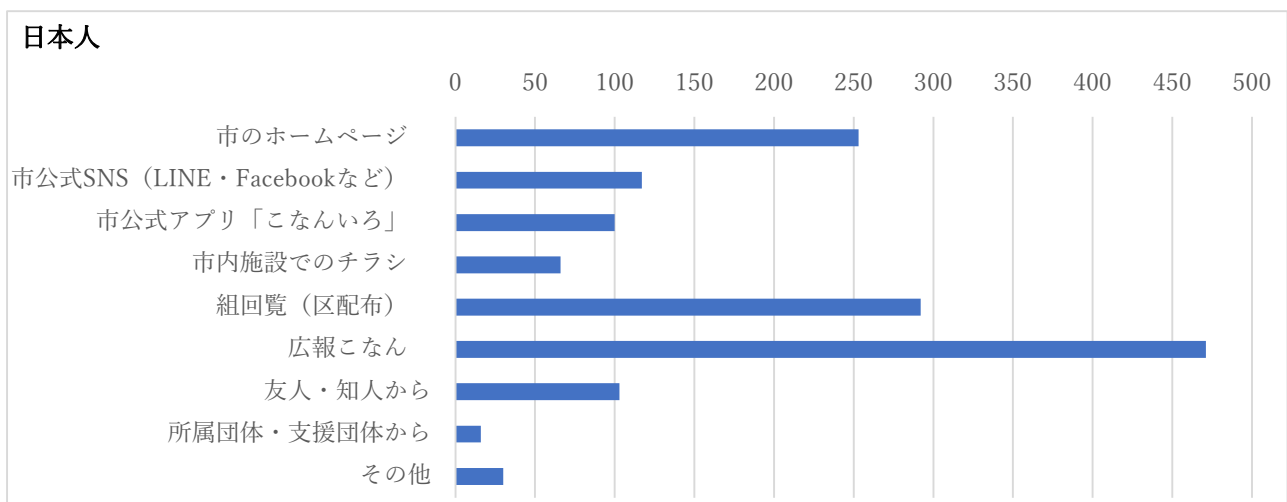
【その他の意見】

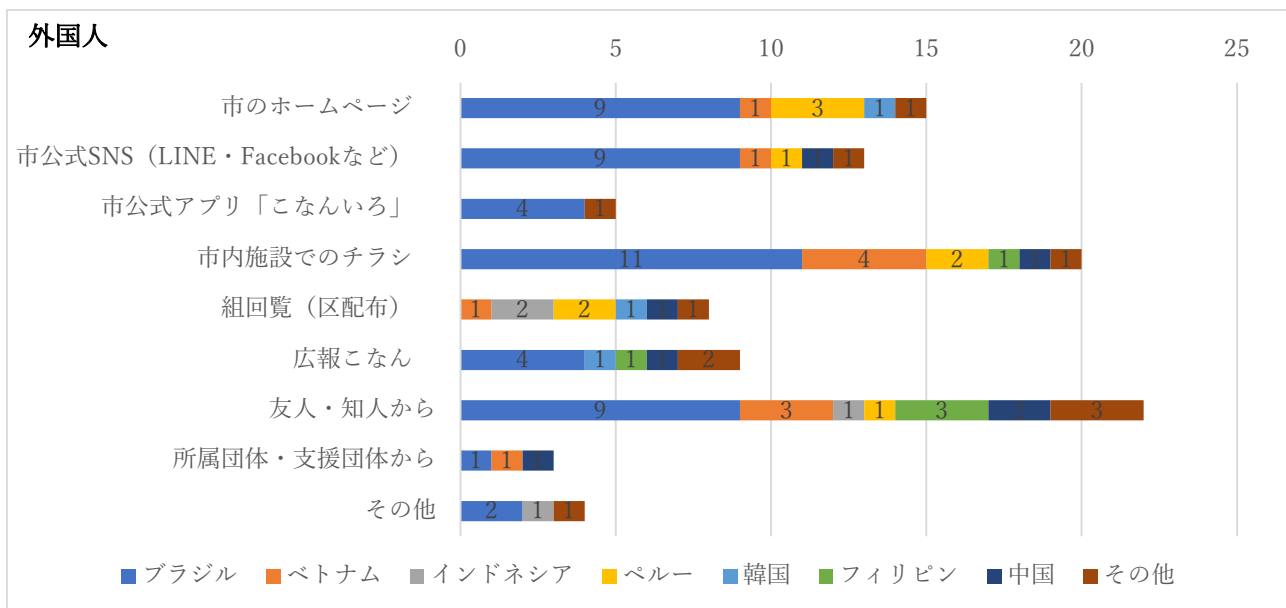
「知っているが不要ない。」「外国人のためのとあるが、タイ語のサービスはない。」 等

日本人、外国人ともに、市役所の外国人向けサービスについて「知らない」と回答した人が最も多く、サービスの認知度が低いことが分かりました。このことから、外国人向けサービスは存在していても十分に周知されておらず、必要な人に情報が届いていない可能性があります。

8. 湖南市の情報について

市からの情報はどこから知りますか（複数回答）

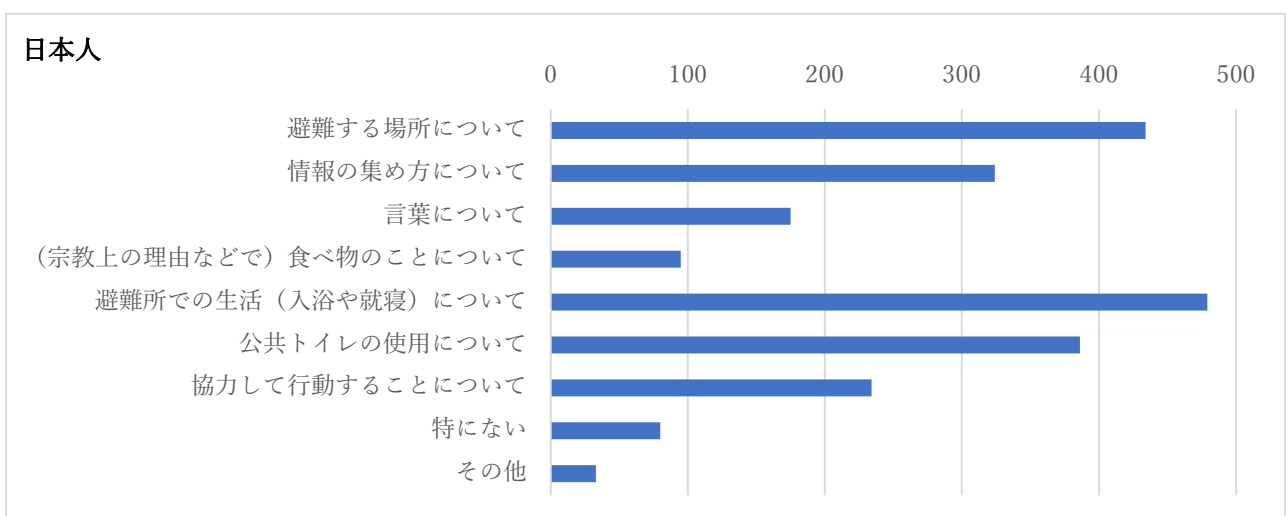




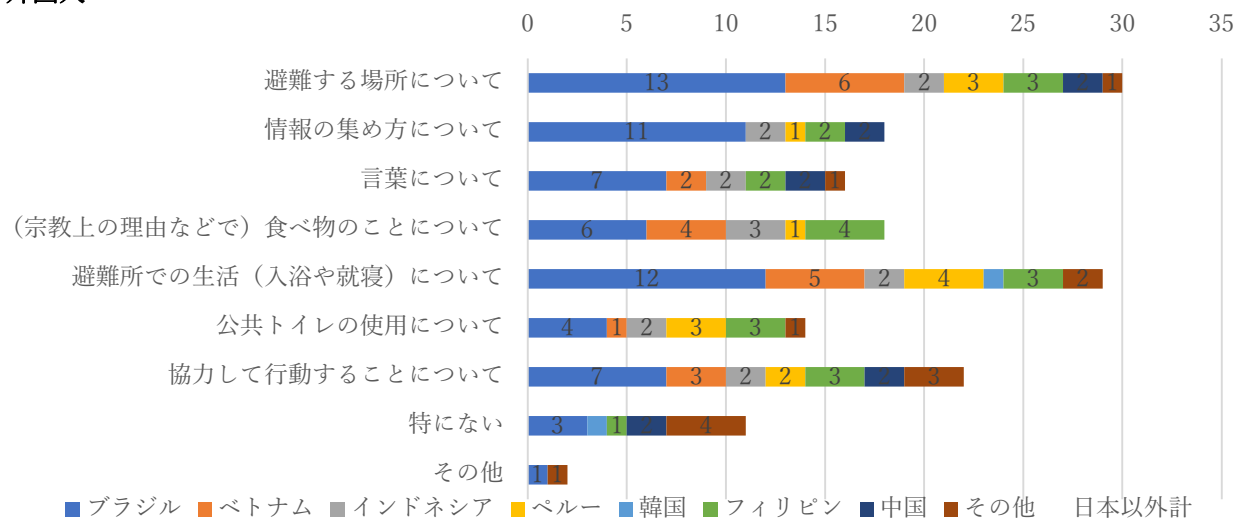
市からの情報を入手する方法について、日本人は「広報こなん」と回答した人が最も多く、行政から発信される広報媒体が主な情報源となっていることが分かりました。一方、外国人では「友人・知人から」が最も多く、次いで「市内施設でのチラシ」となっており、日本人とは異なる情報入手の傾向が見られました。この結果から、外国人は行政から直接情報を得る機会が少なく、身近な人からの口コミや、生活に関わる場所で得られる情報に頼っていることがうかがえます。その背景には、言語の違いや広報媒体の認知不足、情報へのアクセスの難しさがあると考えられます。

9. 災害時について

災害時に、不安に思うことはありますか（複数回答）



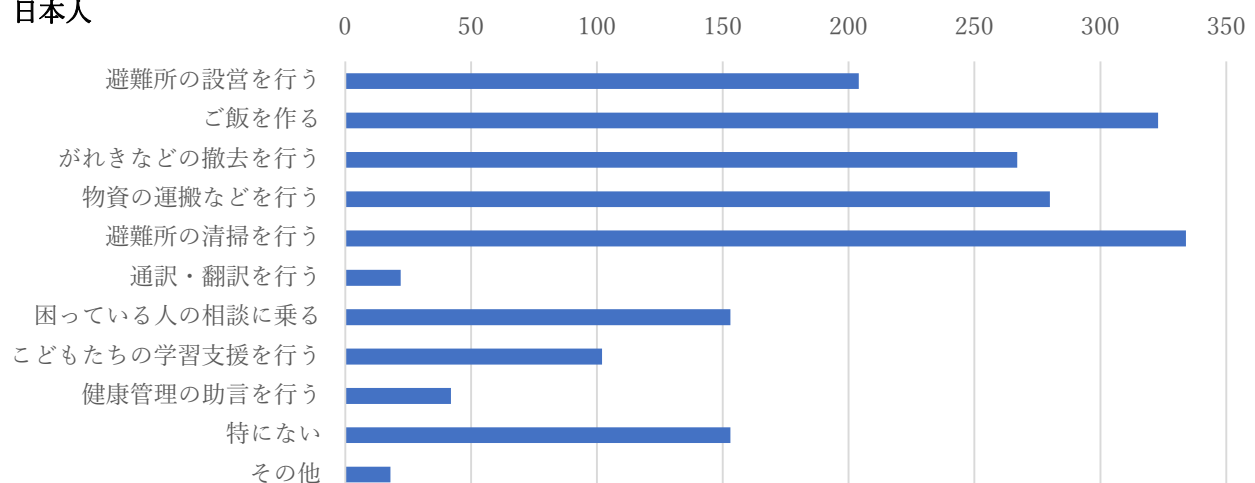
外国人

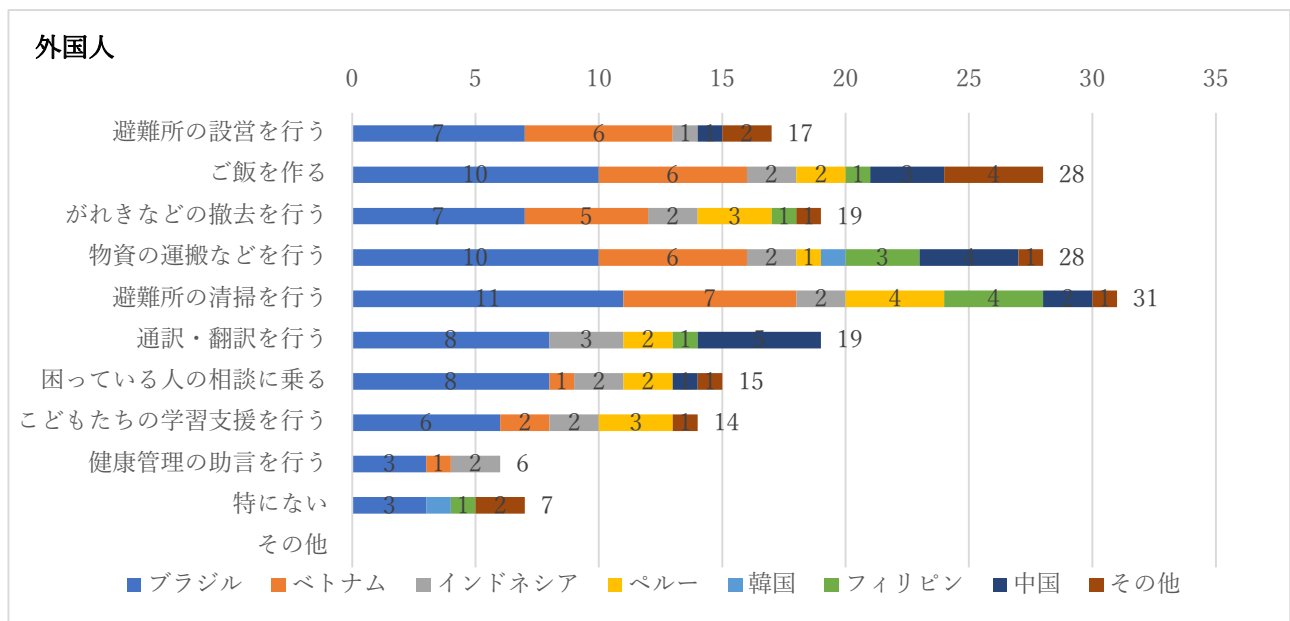


日本人、外国人ともに、災害時に不安に思うこととして、「避難所での生活（入浴や就寝）について」が最も多く、次いで「避難する場所について」が挙げられました。災害発生時には、避難先や避難後の生活環境が大きな不安要素となっており、平常時から避難所の場所や生活ルールについて周知しておくことが重要であると考えられます。また、外国人では「協力して行動することについて」と回答した人も多く、日本語での情報共有や地域住民との連携、災害時の助け合いに不安を感じていることがうかがえます。外国人の場合、災害情報の理解や避難行動、周囲とのコミュニケーションにおいて、言葉の壁が課題となる可能性があります。

災害時に、自分が力になれることがあると思いますか（複数回答）

日本人



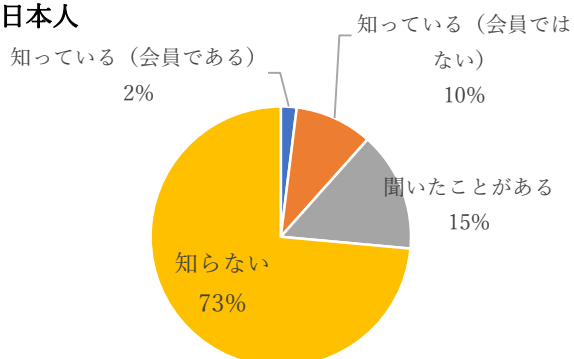


日本人、外国人ともに、災害時に自分が力になれることとして、「避難所の清掃を行う」、「ご飯をつくる」といった回答が多く見られました。このことから、災害時には支援を受けるだけでなく、自分も地域の一員として役割を担いたいという意識が多くの人にあることが分かります。また、外国人についても、災害時に自分が力になれることがあると考えている人が多く、外国人を一方的な支援の対象として捉えるのではなく、地域を支える担い手として考える必要があります。災害時に日本人と外国人が互いに助け合うためには、平常時から地域の防災活動や訓練への参加を促進し、顔の見える関係を築いておくことが大切です。

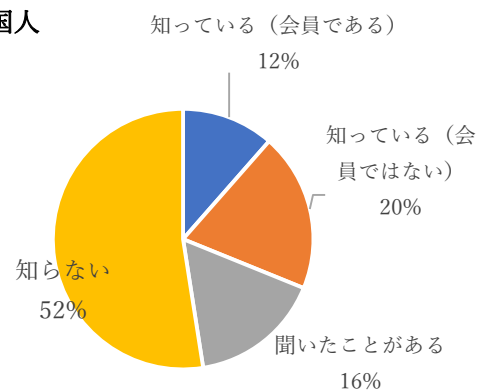
10. 湖南省国際協会について

湖南省国際協会を知っていますか

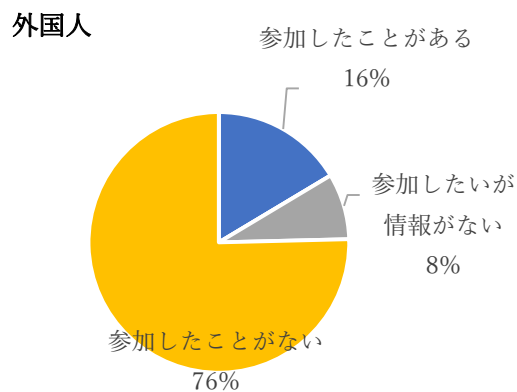
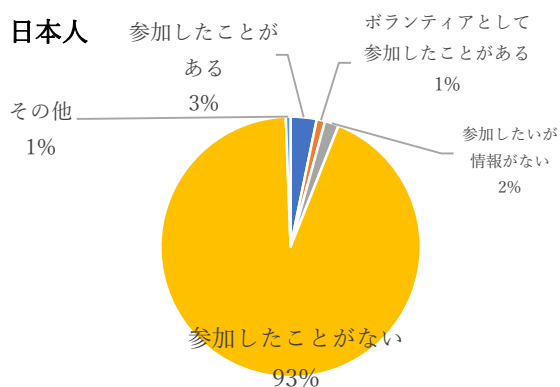
日本人



外国人



湖南省国際協会の活動に参加したことはありますか



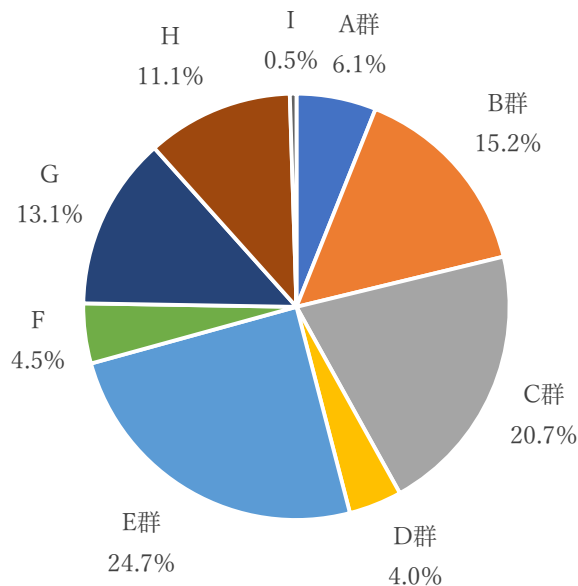
【その他の意見】

「参加して外国語をマスターしたい。」 等

日本人、外国人ともに、湖南省国際協会について「知らない」と回答した人が半数以上となり、また活動に参加したことがない人も多いことが分かりました。国際協会は、日本人と外国人の交流や外国人住民への支援、多文化共生の推進において重要な役割を担う団体ですが、その存在や活動内容が十分に周知されていない状況がうかがえます。この結果から、多文化共生を進めるためには、湖南省国際協会が実施している交流事業や支援活動について、より多くの市民や外国人住民に情報が届くよう、広報や情報発信の方法を工夫する必要があると考えられます。また、日本人と外国人が自然に交流できる機会を増やすことも重要です。

11. 多文化共生のまちづくりについて

多文化共生のまちづくりのために、ご意見やご要望がありましたら、ご自由にお書きください



- A群（両市民が相互に理解すべき）
- B群（多文化共生施策に賛同）
- C群（多文化共生施策に批判的）
- D群（多文化共生施策に参加希望）
- E群（行政への意見・希望）
- F（特になし）
- G（その他 A～F以外）
- H（外国人市民に要望）
- I（日本人市民に要望）

■ A 群（両市民が相互に理解すべき） 12 件

内容：相互に理解が必要である 等

■ B 群（多文化共生施策に賛同） 30 件

内容：外国での生活経験から、マイノリティに寄り添い共生することは重要
市の施策やイベントを継続してほしい 等

■ C 群（多文化共生施策に批判的） 41 件

内容：多文化共生の推進に反対

治安悪化や安全性の低下を懸念している

文化が極端に違う国の人とは一緒に暮らしたくない

多文化共生より優先すべき課題があり現在の仕組みを守るべき 等

■D 群（多文化共生の活動に参加希望） 8 件

内容：職場では問題ないが地域では関わりが薄いのでいざという時の対応に不安がある
退職後は活動に参加したい 等

■E 群（行政への意見・希望） 49 件

内容：多文化共生は進むべきだが外国人犯罪のニュースに不安があり市は適切に管理してほしい、
互いの文化理解は必要だが、住むなら日本文化の理解を重視してほしい。
市が日本の文化やマナーを教える場を設け、苦情対応や指導を行ってほしい。

■F（特になし） 9 件

■G（その他 A～F 以外） 26 件

内容：アンケートで外国人について考えるきっかけになった 等

■H（外国人市民に要望） 22 件

内容：日本で暮らすなら日本の常識を理解してほしい
子どもが触れる機会は良いが、夜遅い集まりや大声などの迷惑行為は控えてほしい
ゴミ出し等のルール遵守を徹底してほしい 等

■I（日本人市民に要望） 1 件

内容：日本人にもゴミやペットのルールを守らない人がいるので、国籍で一括に批判すべきではなく、
日本人・外国人問わず地域のルールを守るべきだ 等

自由記述では、多文化共生のまちづくりに対する意見として、外国人が増えることへの不安や、外国人に対して生活マナーや地域のルールを守ってほしいという意見が多く見られました。また、多文化共生施策そのものに対して否定的・反対する意見も寄せられました。これらの意見から、外国人住民の増加に対する不安や、文化・生活習慣の違いへの戸惑いがあることがうかがえます。外国人が地域で生活するうえで、日本の法律や生活ルールを理解し、地域社会の一員として行動することは重要ですが、多文化共生とは外国人だけに日本の文化や習慣への適応を求めるものではなく、日本人と外国人がお互いの文化や価値観を理解し、尊重しながら共に暮らしていくことを意味します。外国人を一方的に支援の対象や問題の原因として捉えるのではなく、地域を共に支える住民として考えることが重要です。今回の結果から、多文化共生についての正しい理解が十分に広がっていないことが課題として見えてきました。今後は、多文化共生の理念や外国人住民の実情について丁寧に情報発信を行うとともに、日本人と外国人が交流する機会を増やし、互いを知ることによって不安や偏見を解消していく取組が必要であると考えられます。